

大阪府

豊能二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

2018年9月14日
豊能病院連絡会

Contents

1 豊能二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) MDC別診療実績の推移(DPC)
- (4) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

5 将来のあるべき医療体制に向けて

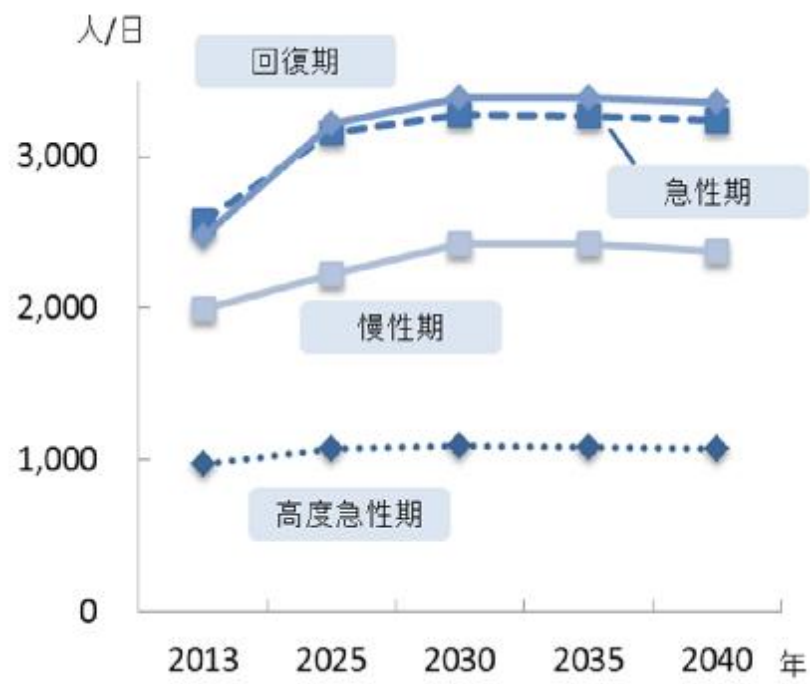
- (1) 2025年に各病院が検討している
医療機能・病床機能
- (2) 目標とする指標(案)

6 大阪府豊能医療・病床懇話会での意見

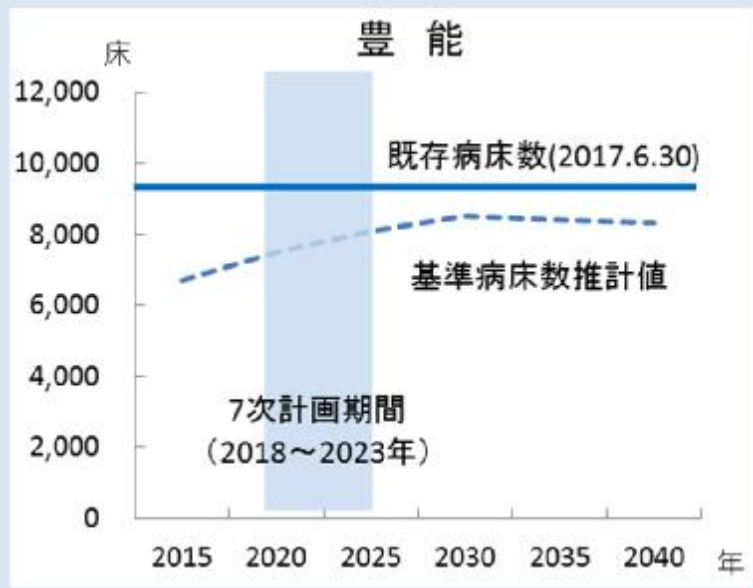
1 豊能二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

豊能二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	970	1,077	1.11	1,090	1.12	1,081	1.11	1,069	1.10
急性期	2,577	3,154	1.22	3,275	1.27	3,267	1.27	3,234	1.25
回復期	2,473	3,219	1.30	3,382	1.37	3,384	1.37	3,354	1.36
慢性期	1,995	2,227	1.12	2,420	1.21	2,421	1.21	2,378	1.19
合計	8,015	9,677	1.21	10,167	1.27	10,153	1.27	10,035	1.25

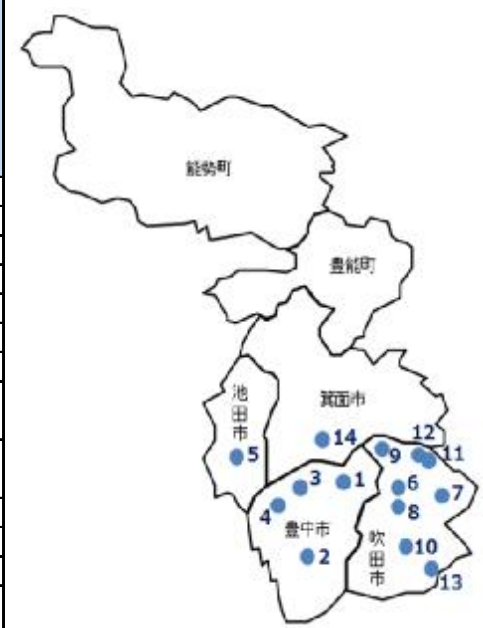
参照：第7次大阪府医療計画 一部改編

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要①

豊能二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が4病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が6病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新にかか る公立 病院 改革 プラン 補足 調査 対象	公的 医療 機関 等 2025 プラン 対象 病院	特定 機能 病院	地域 医療 支援 病院	社会 医療 法人 開設 病院	公的 医療 機関 等	府立 病院 機構	在宅 養後 方支 援病 院	がん 診療 拠点 病院	三次 救急 医療 機関	災害 拠点 病院	特定 診療 災害 医療 セン ター	周産 期母 子医 療セ ンター	感染 症指 定医 療機 関	結核 病床 を有 する 病院	エイ ズ治 療拠 点病 院	
豊中市	1 関西メディカル病院					○												
	2 社会医療法人北斗会さわ病院					○												
	3 市立豊中病院	○			○		○			□				○	○			
吹田市	4 独立行政法人国立病院機構刀根山病院		○				○			○							○	
	5 池田市 市立池田病院	○			○		○			○								
	6 大阪市立弘済院附属病院		○				○											
	7 医療法人沖繩徳洲会吹田徳洲会病院								○									
	8 社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会千里病院		○		○		○		○	○	○	○						
	9 国立研究開発法人国立循環器病研究センター		○	○			○							○				
	10 市立吹田市民病院	○					○			○								
	11 大阪大学医学部附属病院		○	○			○			□	○	○		□			○	
	12 大阪大学歯学部附属病院						○											
	13 社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会吹田病院		○			○		○		○				○				
	14 箕面市 箕面市立病院	○				○		○		○								
	合計		4	6	2	5	2	11	0	2	8	2	2	0	4	1	1	2



※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。
 ※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

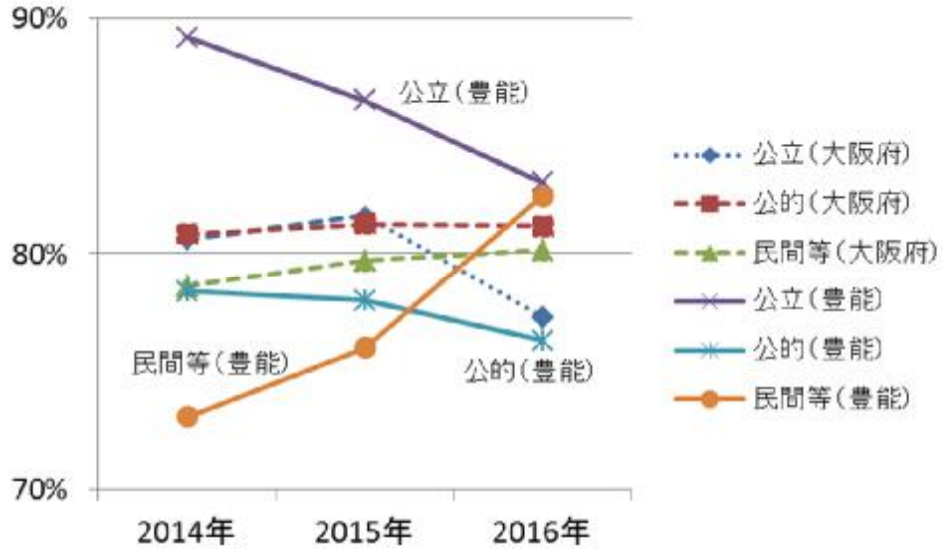
参照：第7次大阪府医療計画一部改編

1 豊能二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②

過去3か年に豊能二次医療圏では、特に民間等において、病床稼働率は上昇傾向にあり、平均在院日数は減少傾向にある

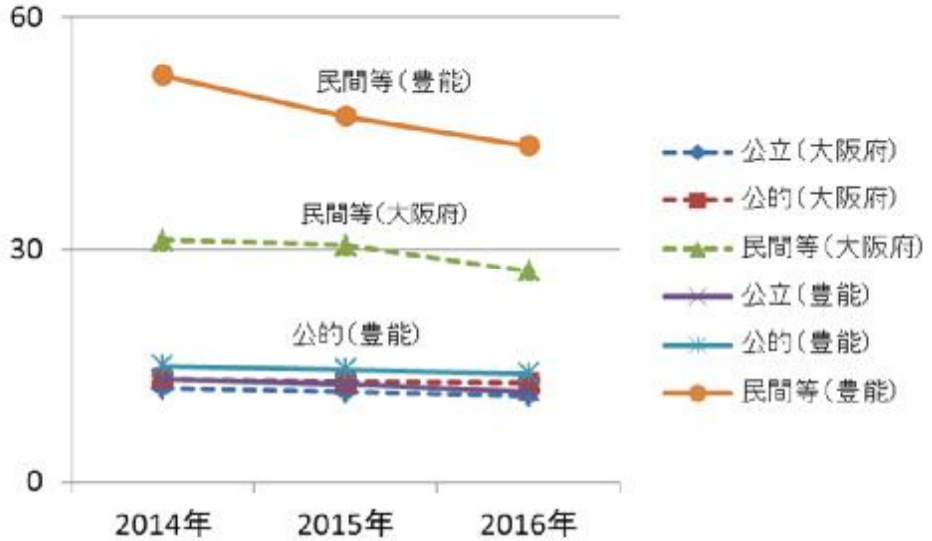
1 病床の運用状況

●病床稼働率（在院患者数、許可病床数から算出）



※各年6月30日から翌7月1日まで

●平均在院日数（在院、新規入院、退院患者数から算出）



※各年6月30日から翌7月1日まで

参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

2 各病院の医療機能一覧(資料2-2 P13)

3 各病院の非稼働病床への対応状況一覧(資料2-2 P3)

1 豊能二次医療圏の概要(3) 診療実態の分析の結果①

入院基本料の看護配置が多くなるほど、(重症)急性期と分類される病棟の割合が高くなる

●急性期報告 病床数(病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	3,117	82.2%
地域急性期	673	17.8%
欠損値	0	
計	3,790	

●(参考) 高度急性期報告 病床数 (病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	1,033	88.1%
地域急性期	139	11.9%
欠損値	565	
計	1,737	

●診療報酬別の急性期病床の分析結果

診療報酬別区分	分析病床数					(参考)不明病床数
	合計	(重症)急性期		地域急性期		
		病床数	割合	病床数	割合	
一般病棟7対1	2,970	2,791	94.0%	179	6.0%	0
一般病棟10対1	450	237	52.7%	213	47.3%	0
一般病棟13対1	60	0	0.0%	60	100.0%	0
一般病棟15対1・特別	221	0	0.0%	221	100.0%	0
小児入院医療管理料	65	65	100.0%	0	0.0%	0
緩和ケア病棟入院料	24	24	100.0%	0	0.0%	0
不明	0	0		0		0
合計	3,790	3,117	82.2%	673	17.8%	0

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

1 豊能二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果②

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、豊能二次医療圏で約10%程度同機能への転換が必要と推計できる

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	1,294	3,304				2,748	2,169			9,515
病床機能報告	2014	1,802	3,960				854	1,971	314	339	9,240
病床機能報告	2015	1,772	4,067				811	2,149	148	291	9,238
病床機能報告	2016	1,775	3,990				966	2,057	61	373	9,222
病床機能報告	2017	1,746		3,117	0	784	1,066	2,175	0	—	9,194
病床数の必要量	2025	1,436	4,044				3,577	2,421			11,478
		合計		3,901							

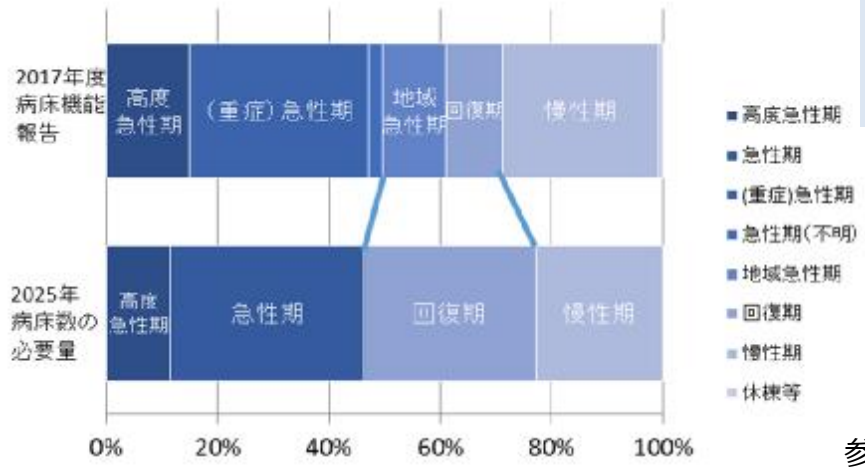
※有床診療所における急性期報告病床は、地域急性期に分類。

★報告病床数は暫定集計であるため、平成29年6月30日の既存病床数9,194を掲載。

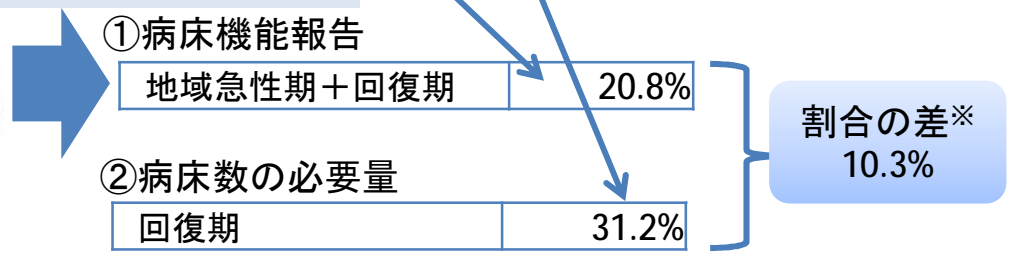
● 病床機能報告 (2017年度) と病床数の必要量 (2025年) の割合 (少数第2位を四捨五入) の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	19.6%		35.1%	0.0%	8.8%	12.0%	24.5%	0.0%	—
病床数の必要量	2025	12.5%	35.2%				31.2%	21.1%		

★病床機能報告で報告があった病床数の総計に対する割合



サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測



※：少数第2位を四捨五入しているため、単純な割合の差とはなっていない。

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧 (病床機能報告暫定結果)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要(1) 病床の現状

「救命救急入院料・特定集中室管理料等」、「特定機能病院一般病棟入院基本料等」は、人口10万当たりの病床数、病床稼働率が府平均より高い

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	313床	30床	2,071床	23床
小児入院医療管理料	192床	18床	1,578床	18床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	1,288床	124床	4,945床	56床
一般病棟7対1	2,979床	286床	28,048床	317床
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	9床	1床	5,695床	64床
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	2,970床	285床	22,353床	253床
一般病棟10対1	450床	43床	9,147床	103床

●病床の利用状況

入院料区分	豊能		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在棟日数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	73.0%	4.6	70.5%	4.7
小児入院医療管理料	77.7%	8.6	74.4%	6.7
特定機能病院一般病棟入院基本料等	86.9%	13.3	80.7%	12.2
一般病棟7対1	83.1%	11.0	82.3%	10.9
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	77.9%	4.2	84.8%	8.8
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	83.1%	11.0	81.7%	11.5
一般病棟10対1	75.3%	17.3	75.6%	14.9

各病院から報告されたもの

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

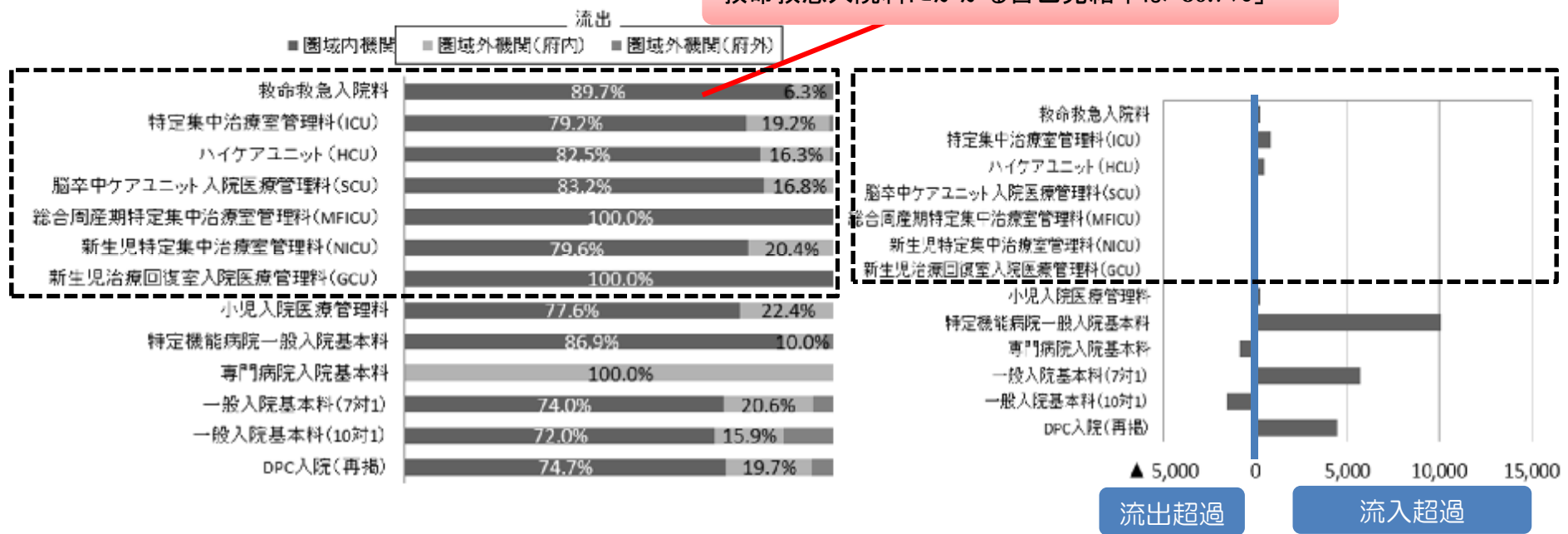
2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ①

各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は高く、一部の入院料において、流入超過の傾向が見られる

1 入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況

救命救急入院料にかかる自己完結率は「89.7%」



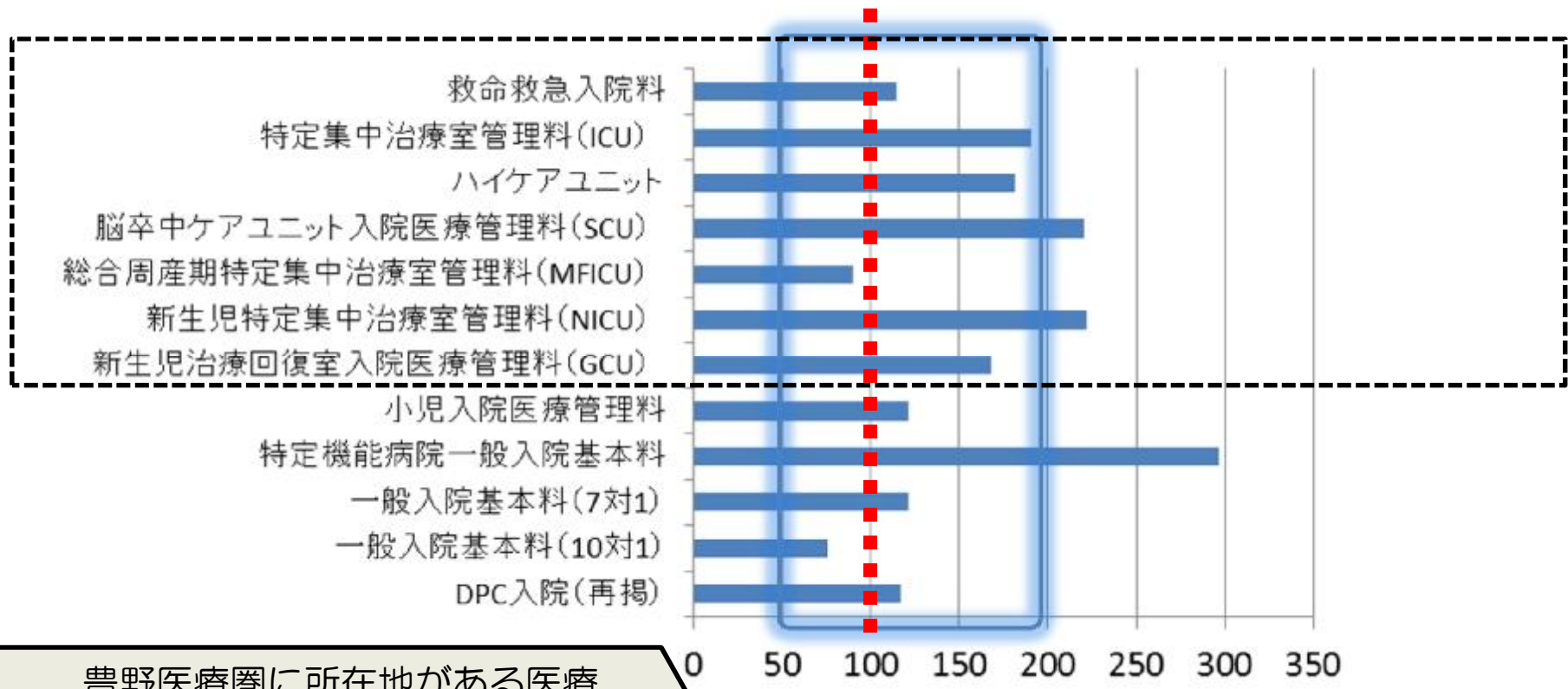
後期高齢者医療制度と
国民健康保険
(被保険者の住所がわかる)

参照：【資料2-4】豊能二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

② 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB) ②

多くの入院料は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い入院料は見受けられない

(2)医療提供状況(SCR)



豊野医療圏に所在地がある医療機関からのレセプト数を性別および年齢で調整標準化したもの (100が全国平均)

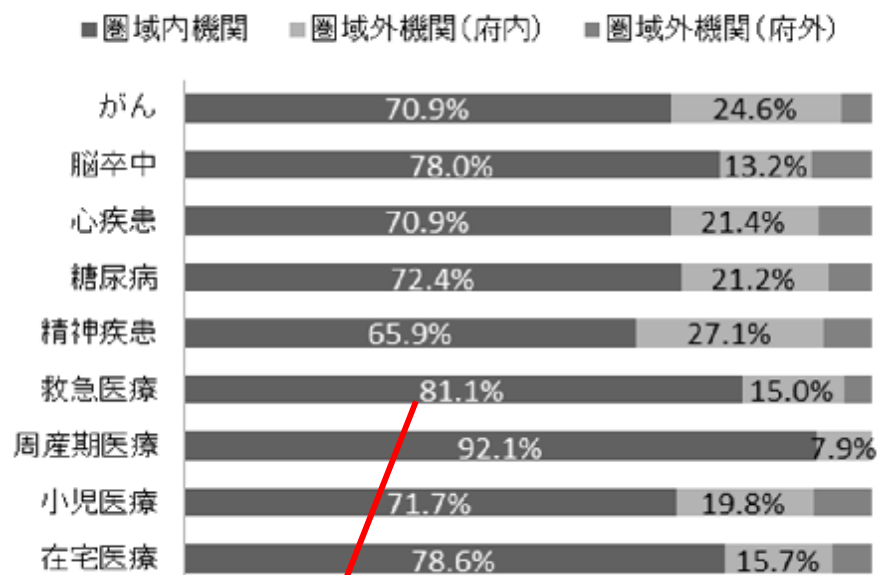
参照：【資料2-5】豊能二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

補足1

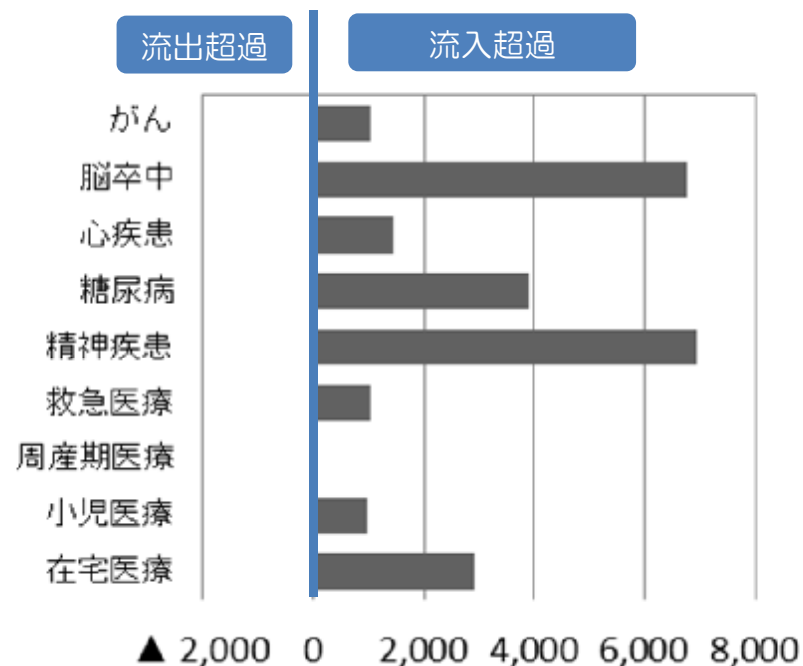
疾病・事業の自己完結率は比較的高く、多くの疾病・事業において、流入超過の傾向が見られる

5疾病4事業・在宅医療

・患者受療状況



救急医療にかかる自己完結率は「81.1%」

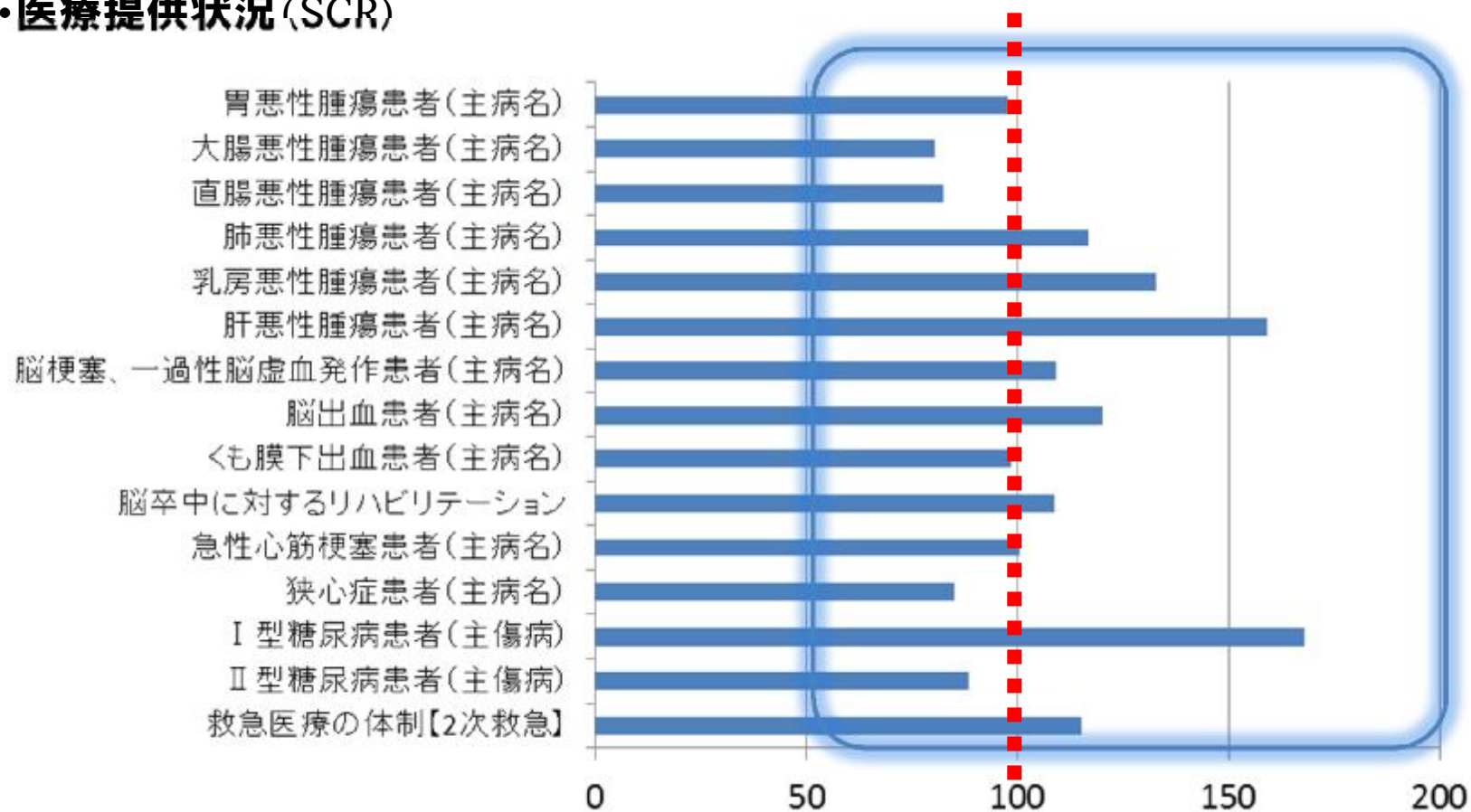


参照：【資料2-4】豊能二次医療圏における患者受療状況（NDBデータ）

補足2

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

・医療提供状況(SCR)

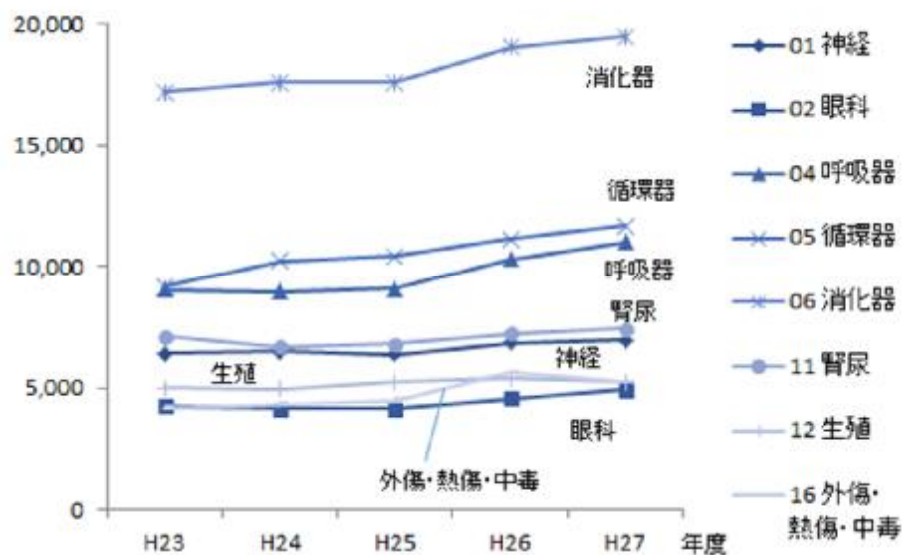


参照：【資料2-5】豊能二次医療圏における医療提供状況（NDBデータ）

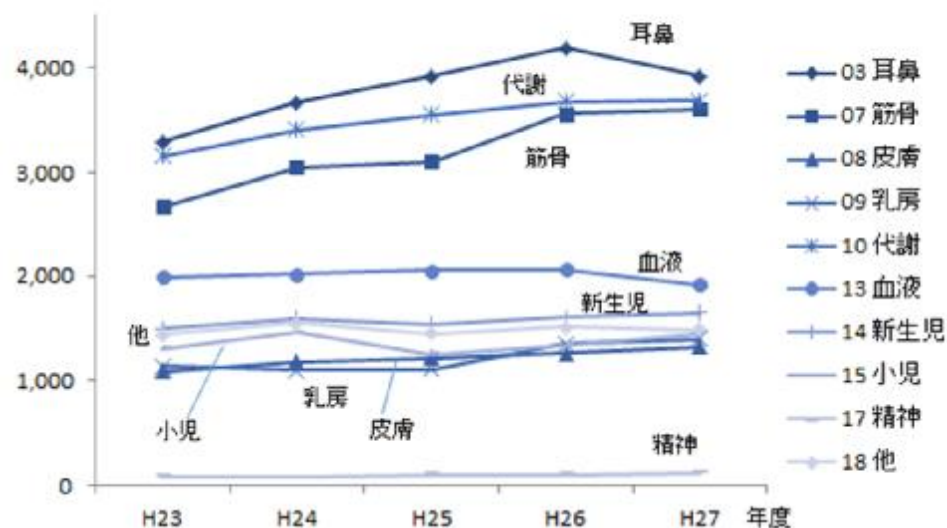
補足3

部位別の診療実績から、多くの部位において需要は増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

● 診療実績4,200件以上



● 診療実績4,200件未満



参照：【資料2-6】DPC参加病院と豊能二次医療圏におけるMDC別診療実績の推移

○入院料の多くは、

人口10万人当たりの病床数が多く、

患者の自己完結率が高く、

流入超過の状況にあるので、

本圏域では、高度急性期から急性期(急性期一般)にかかる病床機能は、比較的充実していると考えられる。

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

人口10万人当たりの病床数では、「地域包括ケア病棟入院料・入院管理料」は府平均より低く、回復期リハビリテーション病棟入院料は府平均より高くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
一般病棟13対1	60床	6床	2,277床	26床
一般病棟15対1・特別	221床	21床	3,427床	39床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	119床	11床	2,434床	28床
回復期リハビリテーション病棟入院料	877床	84床	5,912床	67床
緩和ケア病棟入院料	100床	10床	593床	7床

●病床の利用状況

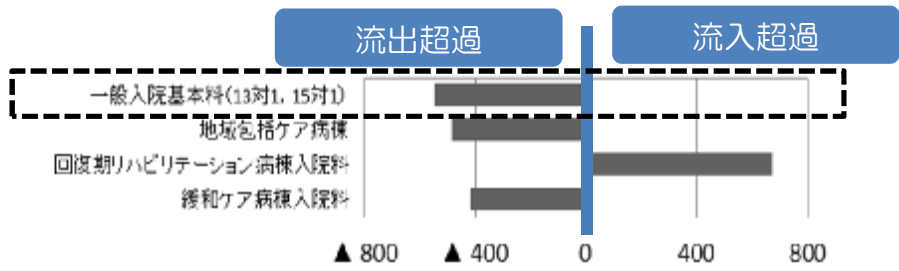
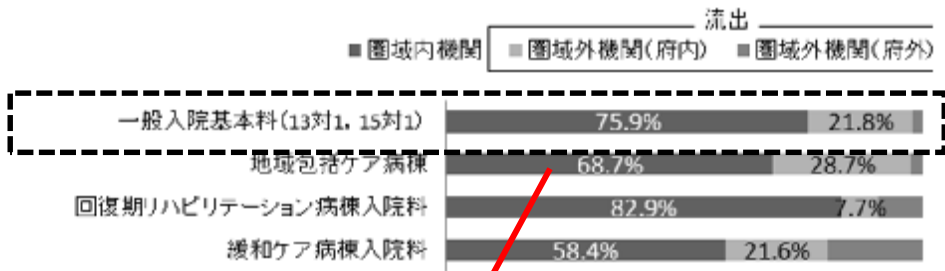
入院料区分	豊能		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
一般病棟13対1	85.0%	30.7	71.4%	21.0
一般病棟15対1・特別	71.6%	40.1	69.3%	35.8
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	80.0%	20.7	77.7%	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	86.7%	67.2	89.6%	61.4
緩和ケア病棟入院料	78.7%	32.0	70.7%	25.2

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

地域包括ケア病棟は、流出超過であり、SCRも50を下回っている

○入院基本料別の状況

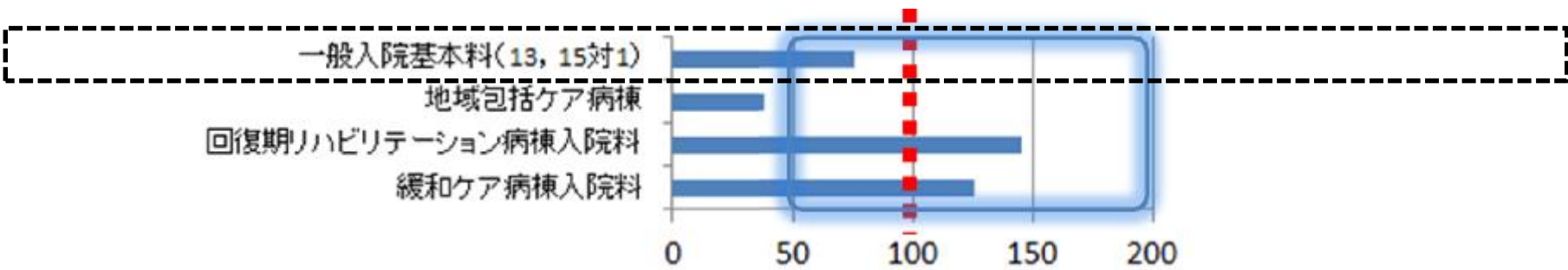
(1) 患者受療状況



地域包括ケア病棟の自己完結率は「68.7%」

参照：【資料2-4】豊能二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2) 医療提供状況(SCR)



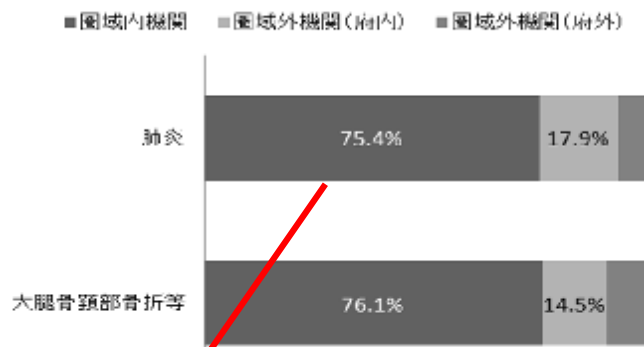
参照：【資料2-5】豊能二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

補足4

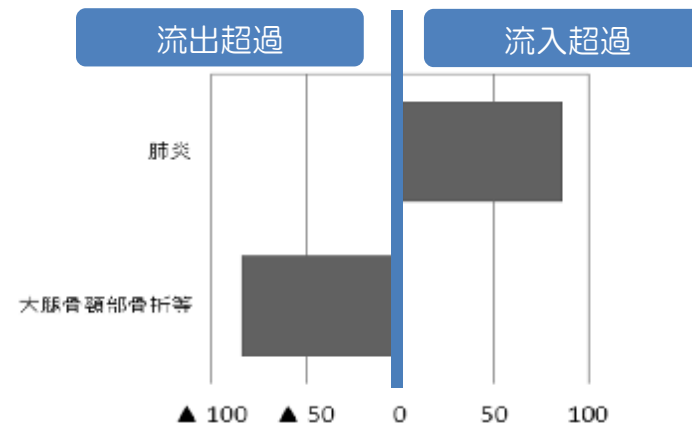
肺炎・大腿骨頸部骨折について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、75%程度と比較的高い値となっている

○肺炎・大腿骨頸部骨折

(1)患者受療状況

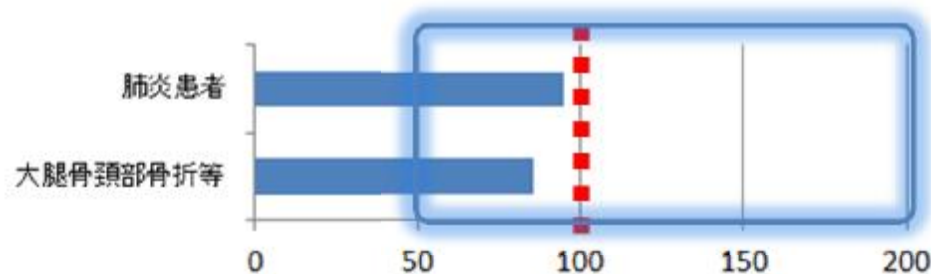


肺炎の自己完結率は「75.4%」



参照：【資料2-4】豊能二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2)医療提供状況(SCR)



参照：【資料2-5】豊能二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○回復期リハビリテーション病棟を除く入院料は、流出超過であり、特に、地域包括ケア病棟については、自己完結率が68.7%、SCRについては50を下回っており、今後必要とされていく見込みである。

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

療養病棟入院基本料1の人口10万当たりの病床数は、府平均より低い
が、病床稼働率は、府平均よりも高い値となっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
療養病棟入院基本料1	1,147床	110床	14,414床	163床
療養病棟入院基本料2	94床	9床	2,351床	27床
介護療養病床	0床	0床	1,788床	20床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	909床	87床	5,881床	67床

●病床の利用状況

入院料区分	豊能		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
療養病棟入院基本料1	94.6%	305.7	89.6%	219.5
療養病棟入院基本料2	97.4%	178.2	81.3%	203.2
介護療養病床			93.0%	339.0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	87.5%	89.1	86.7%	95.4

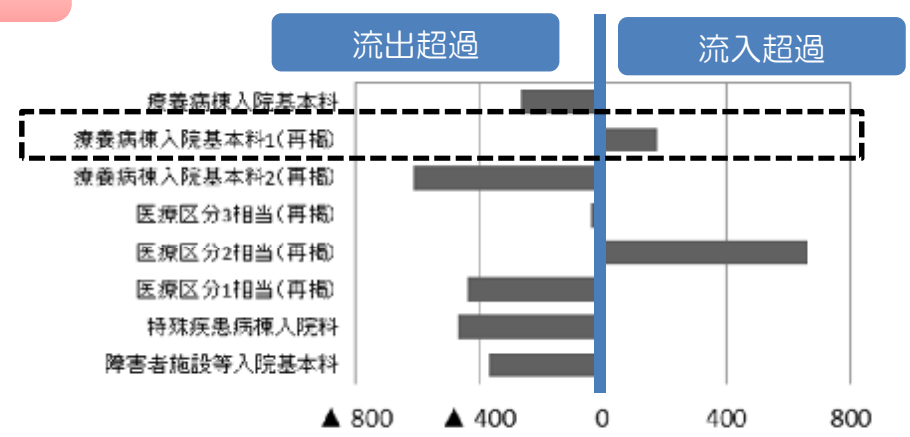
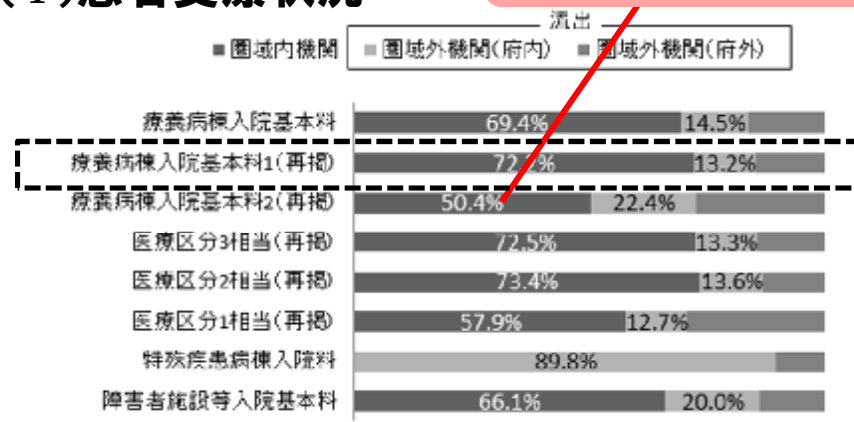
出典：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）

4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

療養病棟入院基本料2と比較して基本料1は、自己完結率が高く、流入超過となっており、SCRも高い

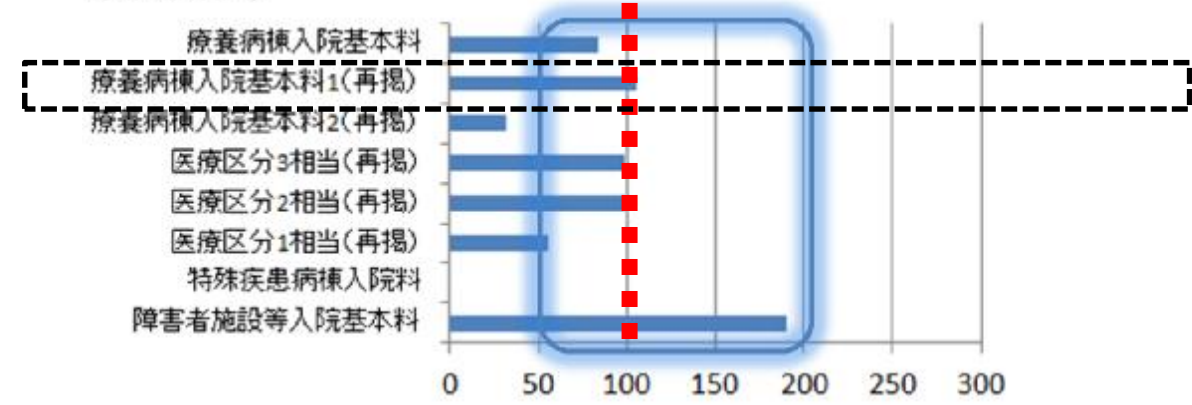
○入院基本料別の状況 (1)患者受療状況

療養病棟入院基本料2の自己完結率は「50.4%」



参照：【資料2-4】豊能二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

(2)医療提供状況(SCR)



参照：【資料2-5】豊能二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ) 20

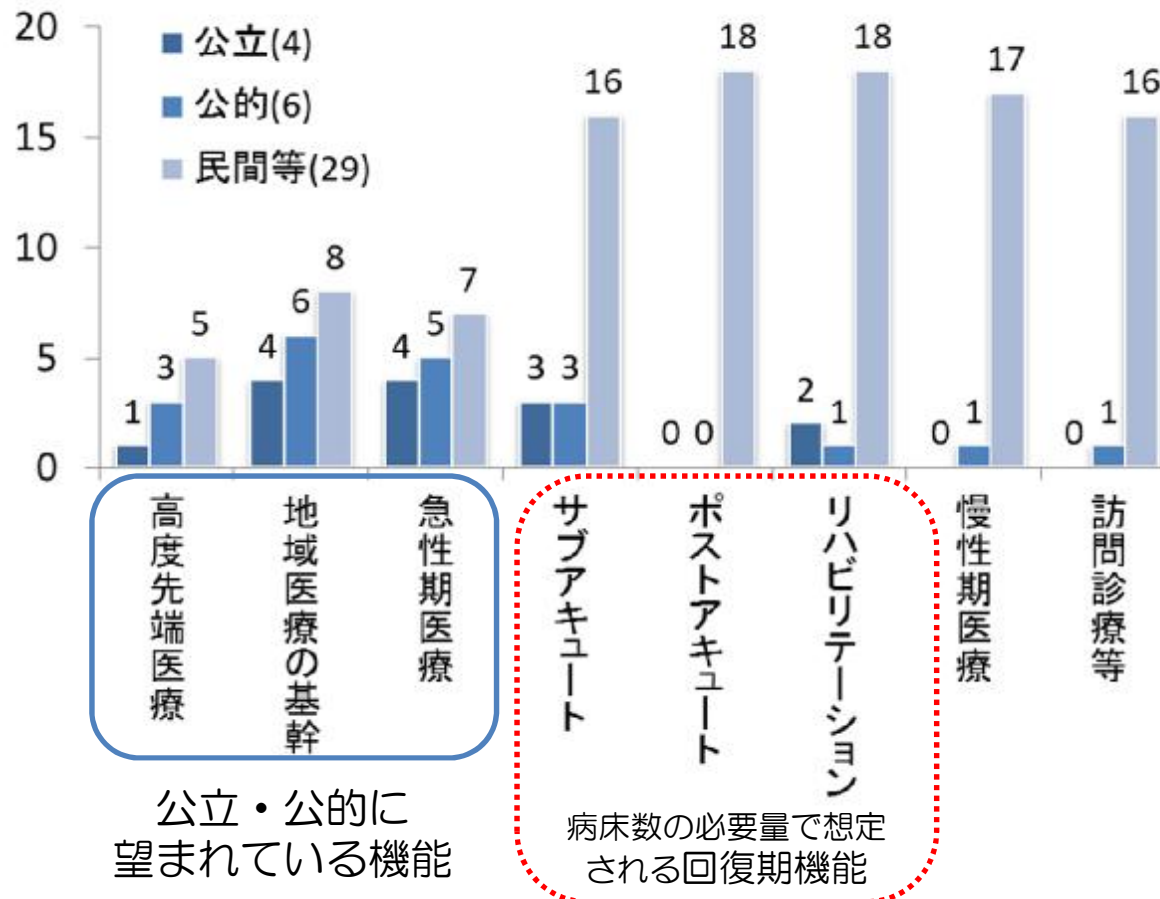
4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

○療養病棟入院基本料1は基本料2と比較して、
SCRが高く、
医療区分2相当患者が流入超過となっていることから、
どちらかといえば
医学的管理が必要な患者に対応している医療機関が多いと考えられる。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能①

回復期や慢性期、訪問診療等は多くの民間医療機関が、担っていききたいと考えている

1 病院自身が将来担うべきと回答している病床機能

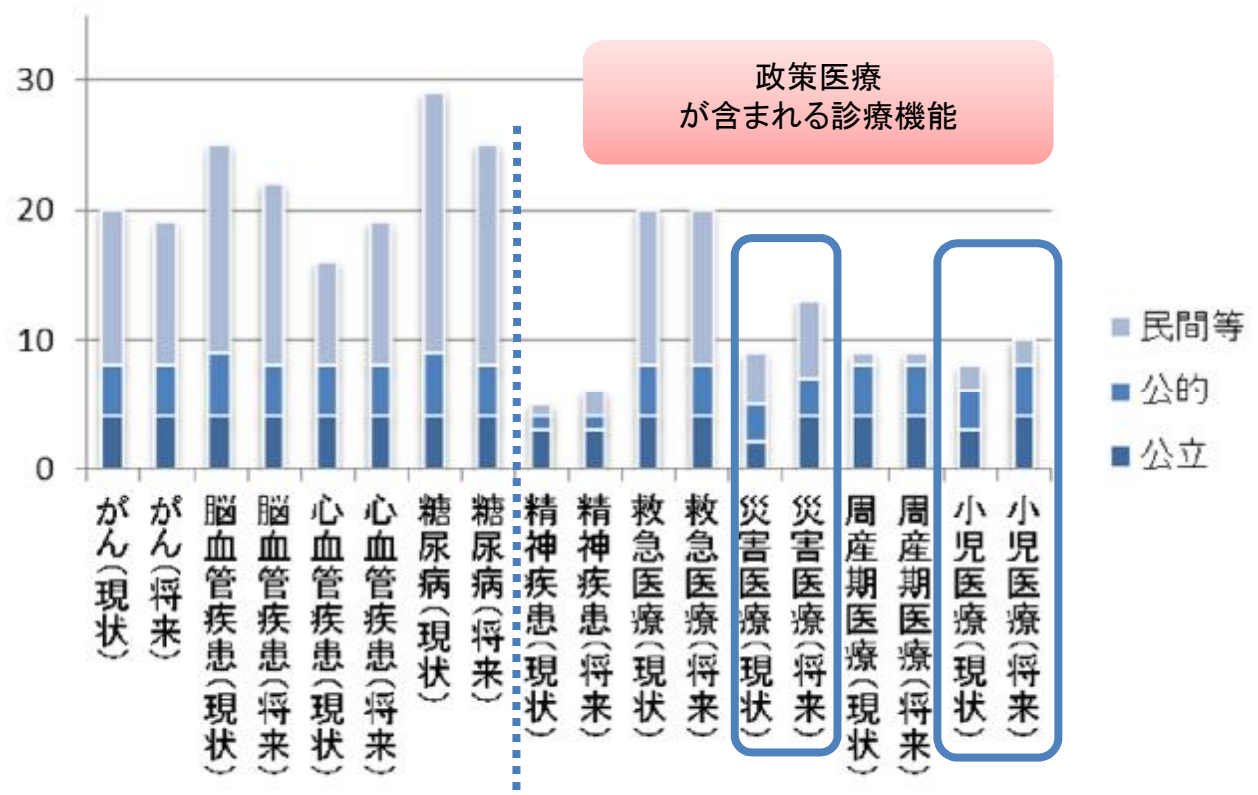


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能②

災害医療・小児医療等の政策医療が含まれる診療機能について、公立・公的の医療機関が、現状よりも将来担うべきと回答した医療機関数が多い

2 将来担うべきと回答している診療機能と現状との比較※



※「現状」は、第7次大阪府医療計画の策定にあたり、医療機能情報提供制度に係る医療機関調査等の結果をとりまとめたもの。「将来」は、特に定義を定めていないため、比較には留意が必要。

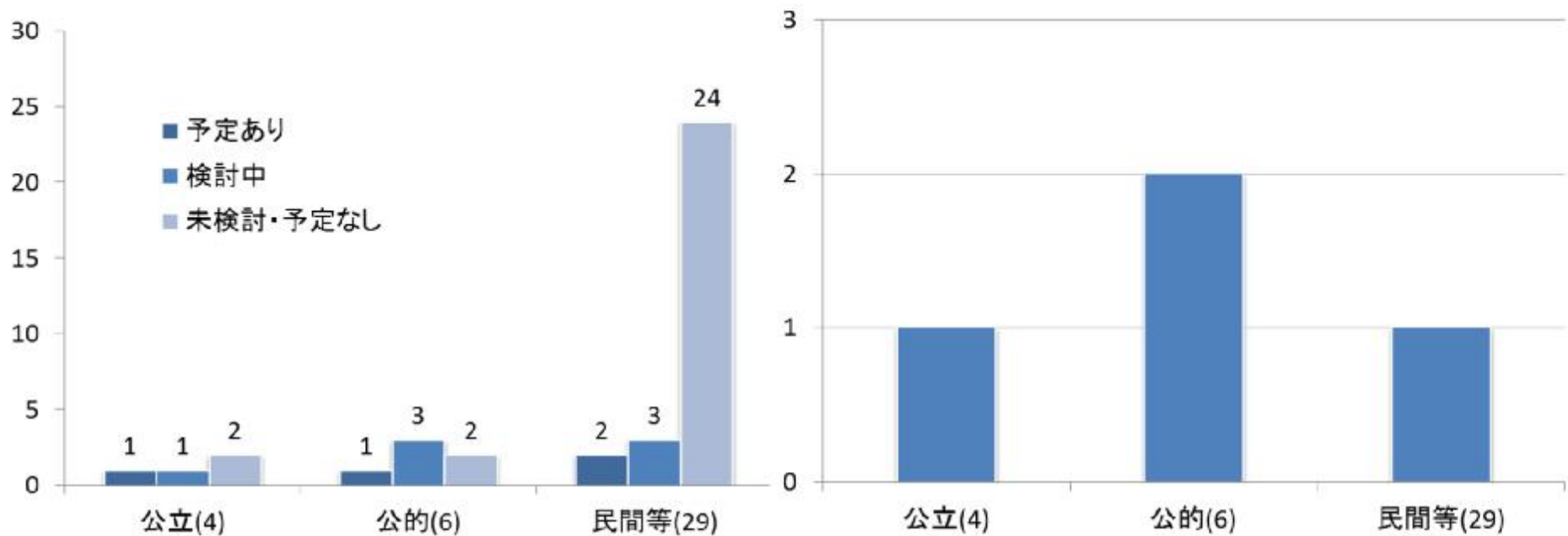
5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能③

2025年に向けた病床機能・病床数の変更等について、公立・公的機関の半数以上は、予定あり、もしくは検討中となっている

3 2025年に向けた各病院のプランのまとめ

● 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無

● 地域医療介護総合確保基金（病床転換に対する一部経費の補助金）の活用の希望

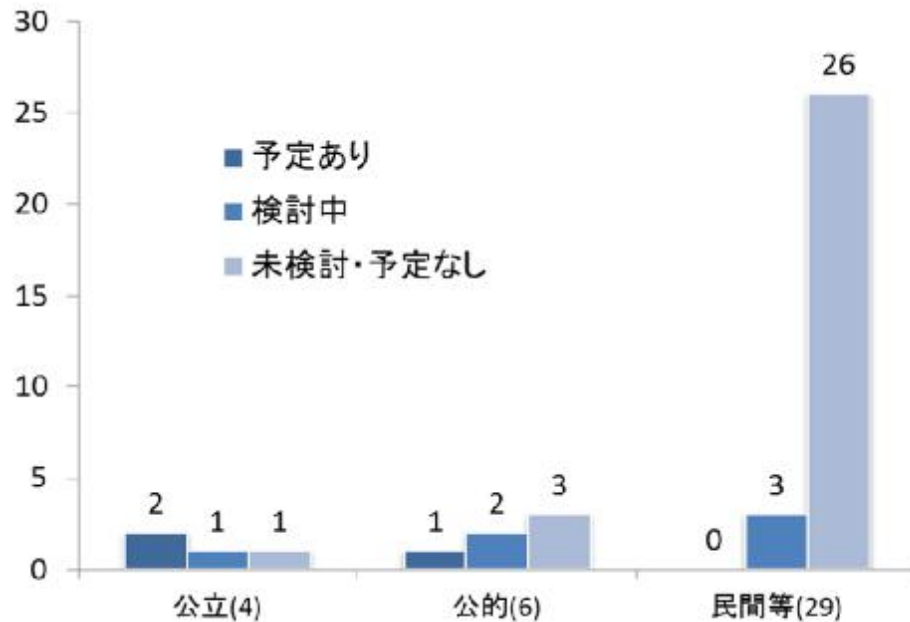


参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

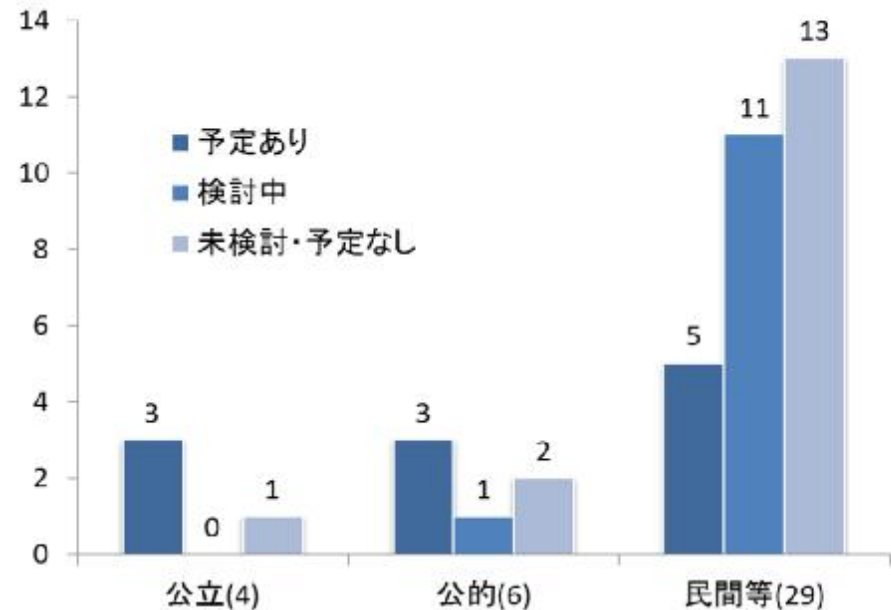
5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能④

多くの医療機関において、2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、予定があるか、検討中となっている。民間病院の多くは診療科の見直しの予定は、未検討・予定なしである。

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

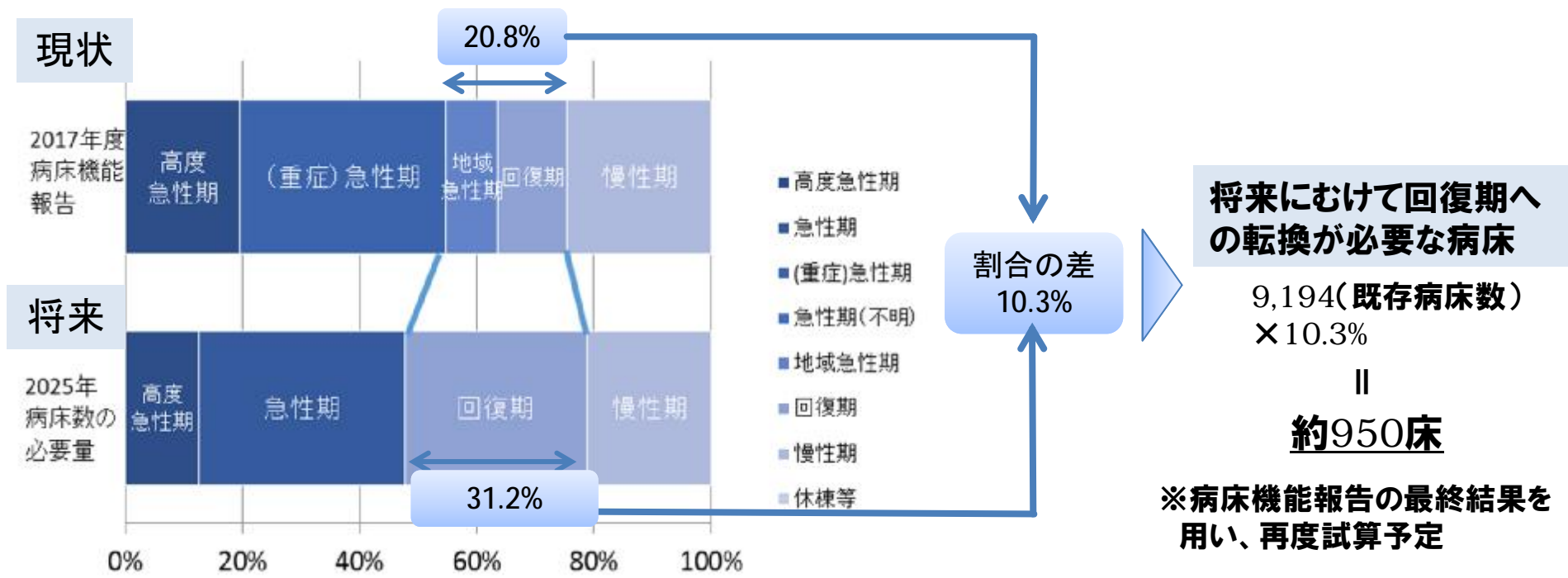
4 2025年までに各病院が検討している医療機能(資料2-2 P16~17)・病床機能(資料2-2 P21,P24~25)一覧

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能のまとめ

- 急性期医療等は公立・公的のほとんどと民間等の一部が将来担おうと考えているのに対し、回復期以降は民間等が中心に考えている。
- 公立病院の一部は災害医療、小児医療について将来担おうと考えている。
- 病床機能・病床数等の変更や診療科の見直しに比べ、建物・設備の整備・改修について予定あり等と回答している病院が多い。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 目標とする指標(案)

1 2025年に向け回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床(暫定値)



- 2 圏域内の医療機関への入院割合
- 3 病床稼働率

6 大阪府豊能医療・病床懇話会での意見

指標について

- 事務局から「回復期への転換を950床とする」との案が提案された。
- 指標1「2025年に向け回復期機能への転換が必要な病床」について、現時点は約10%(約950床)となっているが、事務局案のとおり、7月以降に国から提供される最終のとりまとめデータを基に検討していく。

(その他)

- 病床機能報告の病床数だけでは、病床機能の実態を把握できないため、急性期や回復期の診療実態を分析し、明らかにしていくことが必要。
- 診療報酬改定後の入院基本料のデータもあれば、今後、議論しやすいと思われる。